ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-1	調査位置				北　緯	36 ° 37 ' 39.0700 "
発注機関	栃木県　日光土木事務所			調査期間	2008-02-08 ～ 2008-02-14	東　経	139 ° 27 ' 38.6700 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	769.53 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	5.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
1	768.33 768.23	1.20 0.10	1.20 1.30		玉石・転石混り砂礫 (GS-)	暗褐灰 暗茶褐			φ20～40mmの亜角礫を主体にコア長50cm(推定φ1000～1500mm)の転石を認める。礫間は中～粗砂分と細粒土分から成り、緩く充填する。又、0.85m以深では細粒土分の含有が顕著である。		02/08 0.35
2					風化粘板岩 (SI) 粘板岩 (SI)	茶灰			風化・変質が岩芯にまで達し、コアは細礫状を呈する。 岩塊自体は硬質である。 GL-3.35m付近までは層理の多発による剥離性が著しく、コアはφ10～30mmの角礫状を主体とする。礫状コアはハンマー打撃で金属音を発す。 風化・変質は殆ど無く、概ね新鮮である。		
3						暗灰					
4									以深、層理の頻度を減じ、コアは長さ5～10cmの棒状～片状で採取される。 局所で層理面に沿って白色化を認める。		
5	764.53	3.70	5.00						亀裂は斜状を主にやや多いが、開口性のものは無い。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	3/5	38	9/0	50/15	>50
1.30	50/0			50/0	>50
2.00					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日: 02/08, 02/09, 02/12, 02/13